

## 国際化学肥料ニュース（2020年4月）

### 肥料業界の2020年4月動態

\* 新型コロナウイルスの影響で、インド今年初の尿素国際入札は予定より4日遅れの4月3日に開札された。インド RCF 社の発表によれば、応札量約170万トン、最低応札価格は GreenField 社の CFR 西海岸 251.9 ドル/トン、Amber 社の CFR 東海岸の 257.65 ドル/トンである。交渉の結果、西海岸9万トン、東海岸71万トンの約80万トンを契約した。購入量のうち中国品29万トン（大粒尿素10万トン、小粒尿素19万トン、すべて東海岸納品）、中国経由転売のイラン品5万トン、残りはすべて中東品である。

\* 中国りん酸肥料・化成肥料工業協会のデータによれば、2019年中国りん酸系肥料の生産能力、実生産量、輸出量と利益が2009年以降の最低水準に落ち込んだ。2019年にはメーカー13社がりん酸肥料生産ラインを廃棄し、削減した生産能力が100万トン P2O5 であり、15社が計115万トン P2O5 の生産設備を停止した。りん酸肥料生産量が4年連続減少し、1300万トン P2O5 と推定した。また、国内りん酸系肥料消費量が7%減の1100万トン P2O5、輸出量が6.7%減の508万トン P2O5、輸入量が13.2%減の25.1万トン P2O5。

一方、中国国家统计局のデータによれば、2019年中国ある規模以上のりん酸肥料・化成肥料業界の売上高が6.1%減の3268.6億人民元（約467億ドル）、業界全体の純利益が35.9%減の83.6億人民元（約12億ドル）、利益率が2.6%、りん酸肥料に限って純利益率0.4%しかない。ある規模以上のりん酸肥料・化成肥料メーカー1019社のうち、赤字企業が216社に達した。

厳しい状況を打開するため、中国りん酸肥料業界は製品の構成を改革し、汎用のりん酸肥料の生産能力を減らして、工業用りん酸一安（現在生産能力200万トン）、りん酸一加里（現在生産能力60万トン）、ポリリン酸アンモニウム（現在生産能力30万トン）の拡大を目論んでいる。

\* 4月第1週に世界のりん安市場に変化が見られた。インドが久しぶりに国際市場に主役を務めた。インドが約36.5万トン DAP の輸入契約を行い、4～5月に輸入する予定である。この36.5万トン DAP の供給先はサウジアラビア Ma'aden 社が17万トン、モロッコ OCP 社が10万トン、中国産が7万トン、残りの2.5万トンの供給元が不明である。また、オーストラリアが4月にパキスタンに3万トン DAP を輸出する。ただし、西半球のブラジルとアルゼンチンはりん安を購入する動きがない。

- \* 中国税関の速報によれば、3月の化学肥料輸出量が29.4%増の270.2万トン、金額が2.9%増の5.96億ドル。その内訳は尿素27万トン、硫安77万トン、DAP55万トン、MAP35万トン。しかし、第1四半期（1～3月）の化学肥料輸出量が6.0%減の540.4万トン、金額が27.8%減の11.50億ドル。その内訳は尿素が39.9%減の79万トン、硫安が18.4%増の174万トン、DAPが27%減の81万トン、MAPが32.4%増の58万トン。

一方、3月の化学肥料輸入量が2.8%減の96.2万トン、金額が7.5%減の2.97億ドル。その内訳は塩化加里77万トン、NPK化成肥料17万トン。しかし、1～3月の化学肥料輸入量が23.1%減の266.2万トン、金額が25.0%減の8.23億ドル。その内訳は塩化加里が30%減の207万トン、NPK化成肥料が9.7%増の39万トン。

1～2月輸入輸出ともに大きく減少したのは新型コロナウイルスの影響で、3月が大きく回復したのも新型コロナウイルスがコントロールできた関係である。

- \* ロシアは2019年化学肥料輸出量が1.5%増の3460万トン、金額が2.4%増の84億ドル、中国に次ぐ世界第2位の化学肥料輸出国の地位を守った。

2019年化学肥料輸出量の内訳は、窒素肥料が3.5%増の1445万トン、りん酸肥料と化成肥料が5.5%減の1075万トン、加里肥料が6.7%増の940万トン。主な輸出先はブラジル（780万トン）、アメリカ（380万トン）、中国（350万トン）。

- \* 4月14日、インド政府が新型コロナウイルスの流行を制止するためにロックダウン期限が5月3日まで延長すると発表した。但し、農業生産に必要な化学肥料を確保するため、肥料メーカーがロックダウンの対象から除外する。インドIFFCO社が4月8日から120万トンのDAPと化成肥料生産ラインを再開した。IRC Agro社の66万トンDAPと化成肥料生産ラインが4月中旬再開、MCFL社の60万トン化成肥料生産ライン、FACT社の48.5万トン化成肥料生産ラインも4月末まで再開すると発表した。

- \* 新型コロナウイルスの影響で、りん安の国際市況が回復する兆しが現れた。特にインドのロックダウンにより、国内DAP生産がほぼ停止され、輸入の意欲が高まってきた。4月第2週にインドがモロッコ、中国とサウジアラビアからCFR315～318ドル／トンの価格で22.5万トン以上のDAP購入契約を締結した。また、4月第3週にRCF社が9万トンDAP、MCFL社が3万トンDAP、GSFC社が2万トンDAPの入札を行った。

一方、西半球ではブラジルとアルゼンチンの需要が引き続き低迷で、ロシアから出した粒状MAPのCFRブラジル310ドル／トンが拒否され、アルゼンチンの

ACA/Bunge 社が行った 3.2 万トンのリン安入札では CFR310 ドル／トン未満を要求する。アメリカもリン安価格がこの数年間最安値まで下落した。

- \* インドは 5 月から主要な加里メーカーと 2020～2021 年の塩化加里輸入基本契約の商談を始める。2019～2020 年の塩化加里契約はすでに 3 月末に終了したが、新型コロナウイルスの影響で、インド政府が 3 月 25 日から 5 月 3 日まで全国外出禁止令を出した。塩化加里輸入基本契約の商談は外出禁止の解除後に行う予定である。なお、2019～2020 年の塩化加里基本契約は CFR 価格 280 ドル／トンと決定した。
- \* 中国と主要加里メーカーとの 2020 年度塩化加里輸入基本契約の商談は膠着状態である。障害は価格である。中国側は加里の国際市況の低迷を理由に CFR 価格を 220～230 ドル／トンまで下げると要求しているが、加里メーカー側は CFR240～250 ドル／トンで応酬している模様。3 月末現在、中国港に在庫している輸入塩化加里数量は 180 万トンを切って、この数年間最低の在庫量である。中国側は基本契約の早期締結を目指している。
- \* インド政府は 2020～2021 年度（2020 年 4 月～2021 年 3 月）の加里肥料補助金を 9%削減することを発表した。インドは加里資源がなく、毎年 400～500 万トン塩化加里を輸入する。2020～2021 年度の補助金は 10,116 ルピー／トン（約 133 ドル／トン）、前年度の 11,124 ルピー／トンより 9%減少する。
- \* 4 月 30 日ベラルーシの BPC 社は中国側と 2020 年塩化加里輸入基本契約に合意し、締結した。基本契約の CFR 価格 220 ドル／トンで、前回 2018 年より 70 ドル下がった。
- \* ロシアの Uralkali 社はベラルーシの BPC 社と中国との 2020 年塩化加里輸入基本契約に不満を表した。Uralkali 社は「現時点で発展している実際の市場の状況またはその見通しを反映していない。その特定の契約の長さ、または業界全体のどちらにも適切ではないことが合意されました。」と声明を発表した。また、「BPC が合意した価格レベルで契約が合意されれば、長期的には生産者が設備投資を削減し、最終的には市場で塩化カリウムが不足することになる」と付け加えた。同社は、BPC が設定した価格で契約を締結する用意があるかどうかを検討する必要があるとも述べている。

### 大手各社の営業業績

- \* ロシアの PhosAgro 社は 2020 年第 1 四半期の業績を公表した。肥料生産量が 8.6%増の 254.7 万トン（りん酸系肥料生産量 192.9 万トン、窒素系肥料生産量 61.8 万ト

ン)。ほかにりん鉱石採掘量が0.9%増の295万トン。肥料販売量が9.6%増の279万トン（リン酸系肥料208.7万トン、窒素系肥料70.3万トン）。

- \* ノルウェーの Yara 社は 2020 年第 1 四半期の業績を公表した。アンモニア生産量が 6.8%減の 192.4 万トン、肥料生産量が 3.2%減の 531 万トン、肥料販売量が 11.2%増の 756 万トン、売上高が 5.4%減の 28.51 億ドル、EBITDA が 9.9%増の 5.11 億ドル、純利益が赤字 1.17 億ドル。
- \* アメリカの Mosaic 社は 2020 年第 1 四半期の業績を公表した。肥料販売量は塩化加里 190 万トン、りん酸肥料 190 万トン、化成肥料 210 万トンの合計 590 万トン。売上高が 18 億ドル、EBITDA 2 億 1,400 万ドル、純利益 2 億 300 万ドルの赤字である。赤字は業務以外の損失によるものである。
- \* ロシアの EuroChem 社は 2020 年第 1 四半期の業績を公表した。製品販売量が 10%増の 640 万トン、売上高が 3%増の 15.7 億ドル。

#### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* ベラルーシの Slavkaliy 社は Nezhinsky 加里鉱山開発プロジェクトが順調に進み、堅坑が最初の加里岩塩層に到着したと発表した。2020 年 4 月に使用しているドイツ製のシャフトボーリングロードヘッダー（SBR）マシンが地下 567m にある加里岩塩層に到達し、横坑道の掘削工事に必要な構造物を取り付けてからさらに次の加里岩塩層に向けて 1 日最大 5.3m の速度で掘削再開した。Nezhinsky 加里鉱山開発プロジェクトが 2017 年から始まり、すでに 4 億ユーロを投資して、2021 年から生産開始し、2023 年建設完了時に最大 200 万トン塩化加里生産能力を有する計画である。
- \* 中国は 2020 年に 5 ヶ所の新規尿素生産ラインが完成し、生産能力が 412 万トン増加する予定で、2020 年末には尿素生産能力が 7347 万トンに回復する見込みである。2020 年完成予定の尿素生産ラインは表に示す通りである。

会社名	生産能力（万トン）	原料	完成予定時期
山東晋煤明昇化工	60	石炭	2020 年 6 月
湖北三寧化工	80	石炭	2020 年 6 月
山東潤銀生物化工	100	石炭	2020 年 9 月
ウランバートル烏蘭集団	120	石炭	2020 年 11 月
江西九江心連心化肥	52	石炭	2020 年 12 月
合計	412		

- \* カナダの Western Resources は 4 月 28 日、カナダサスカチュワン州レジーナの南東にある Milestone 加里鉍山のフェース 1 プラントの結晶池が完成し、試運転に入ると発表した。開発中の Milestone 加里鉍山は湿法採鉍方式を採用し、地下鉍脈を溶かした塩化加里飽和溶液を結晶池に入れ、再結晶させる。Milestone 加里鉍山の設計生産能力は塩化加里 100 万トン、2020 年末から稼働始める予定である。
- \* インドの Chambal Fertilizers and Chemicals (CFCL) 社は 3 本目のアンモニア生産ラインが完成し、試運転に入ると発表した。当該生産ラインはアメリカ KBR 社の Purifier™ アンモニアテクノロジーを採用し、生産能力がアンモニア 3200 トン/日で、インド最大のアンモニア生産ラインである。

#### その他

- \* 4 月 7 日、中国国営大手化学メーカーの陽煤グループは傘下にある豊喜肥業、正元集団、深州化工と壽陽化工 4 社の株式をすべて売却し、肥料事業から撤退すると発表した。陽煤グループは 2016 年から赤字を続き、2019 年の赤字額が 4.5～5.4 億人民元（約 0.65～0.8 億ドル）に膨らむ見通しである。赤字の肥料事業を売却することにより業績改善に努める。  
 山西省にある豊喜肥業の年間生産能力は尿素 180 万トン、化成肥料 40 万トン、河北省にある正元集団の年間生産能力はアンモニア 80 万トン、尿素 120 万トン、ともに中国の大手尿素メーカーである。ともに 2018～2019 年に大きな赤字を計上し、経営が悪化している。
- \* 4 月 14 日、中国最大の加里メーカー塩湖集団が 2019 年の業績を公表した。営業収入（売上高）197.5 億人民元（約 28.2 億ドル）、赤字 458.13 億人民元（約 65.4 億ドル）。3 年連続赤字である。  
 塩湖集団が国営企業で、多額の借金を背負っているため、昨年一度裁判所から倒産手続きに入ると宣告されたが、その後政府の支援で、倒産手続きが停止された。銀行などからの貸入れ金を削減するために現有株式の数に相当する 26.5 億株の新規株式が発行し、借金と引き換える禁じ手を出した。